

令和3年度 第1回港区児童福祉審議会

港区児童相談所のあらまし

令和3年4月13日 港区児童相談所

※ 港区の区域

■面積 20.37 km の 20.37

■人 □ 258,821 人

■児童人口 40,291 人

令和3年4月1日現在



児童相談所の設置にむけて

区は、平成12年に子ども家庭支援センターを設置して以降、子どもと子育てに関する相談を受け付け、支援を実施。特別区では、東京都に対し、児童相談所を移管するよう求めてきました。



平成28年6月の児童福祉法等の改正により、児童虐待の発生予防のため区市町村の役割が強化。 特別区においても児童相談所が設置できるように。

子ども家庭支援センターが受理する 新規の相談件数

- ⇒平成17年度以降、年々増加
- <令和元年度>
- 過去最多の1,440件
- ※うち、児童虐待相談件数は750件で 前年度の約1.5倍

区は、増加する児童虐待などの子どもの相談に、迅速、丁寧に、切れ間なく対応するため、令和3年4月1日に、児童相談所を設置しました。

<基本方針>

児童福祉法の理念に基づき、区の全ての児童が、権利の主体として、適切に養育され、生活を保障され、愛され、保護され、心身の健やかな成長発達と自立が図られることを目指します。区民に身近な基礎自治体として、地域と連携協力し、児童の年齢及び発達の程度に応じてその意見を尊重し、児童の最善の利益が優先して考慮されるよう努めます。

児童相談行政の全体像

ハイリスク

支援

児童相談所

- 専門技能を要する相談への対応(社会・心理・医学・行動診断)
- 一時保護や施設入所等の法的権限の行使、家庭復帰支援
- 里親支援、養子縁組

子ども家庭支援センター

- 子どもと家庭に関する総合相談窓口 (養護・虐待・育成・DV・ひとり親等の相談)
- 要保護児童対策地域協議会の調整機関
- 母子生活支援施設での支援
- 保健所や医療機関と連携した発見・支援体制
- 各種在宅サービスの提供及び調整
- 地域のネットワークづくり、子育で情報の提供

保健所、子育てひろば、派遣型支援、子育て活動団体等

- こんにちは赤ちゃん訪問や健診等の母子保健事業
- 教育・障害・総合支所等の相談支援事業
- 身近な地域施設での気軽な相談、交流事業
- 民間活動団体による子育で支援活動

※1 旧事会等 スタブルスげ

・システムの共有

事務室·相談室

受理会議の

共同開催

等を共用

一民生・児童委員、主任児童委員、 地域こぞって子育で懇談会など

※1 児童館等、子育てひろば、

社会的養護(児童養護施設、乳児院、里親等)

専門相談機関

(虐待、障害、非行等)

虐待

三次予防

(再発防止)

育児不安

個別の家庭の事情、問題に合わ せた支援

緊急時に安全確保できる体制

一時保護や医療、心理判定

などの専門性の高い支援

子どもと家庭への相談支援と育 児を支えるサービスの提供

一次予防

ポピュレーションアプローチ (子ども・子育て支援・母子保健) 身近な地域での子育て支援 区民・NPOなど、地域が持って いる相互支援 誰でも気楽に集える場の提供

全ての児 童のため の支援

地域と総合支所、保健所、子ども家庭支援センター、児童相談所が連携した切れ目のない予防型児童相談体制



地域全体で全ての子どもを守るまち港区

港区児童相談所の設置にあたり基本としたこと

- ① 人口30万人弱の小さな基礎自治体の強みをいかす。
 - →きめ細かな子ども・子育て支援策と連動させ、多様な支援に迅速につなげる 切れ目のない支援を実現させる
 - →専門性の高い児童相談所とその1機能としての一時保護所は小規模にする 子ども家庭支援センター母子生活支援施設と児童相談所が緊密に連携する
- ② 利用者目線を尊重し、子ども家庭支援センターを存続させ子どもと家庭への支援 体制を充実させる。児童相談所は別の組織とするがシステムその他は連携させる
- ③ 子どもと家庭を支援してきた地域の力を、子ども家庭支援センターと共に児童相談 所もいかしていく。区民と顔が見える関係を築いていく
- ④ 港区の子ども家庭への支援の現状に対応するため、医療面での支援や心理相談 を充実させる。親子支援プログラムを実施する
- ⑤ 各地域で子どもと家庭を支援してきた区職員の力を結集すると同時に、区外から指導力、専門力の高い職員を採用することで、開設後も成長できる児童相談所をつくる

基本方針の実現にむけた取組



組織体制と人材の確保・育成

職員合計 83人

児童相談所

児童相談課

所長(=部長)

副所長(=課長)

相談援助担当課長

課長



運営調整係 6人 【事務】

児童福祉係 32人 【児童福祉司、保健師、弁護 士、医師、人材育成専門員、 警察OB 電話相談専門員等】】

児童心理係 11人 【児童心理司】

保護係(一時保護所) 31人 【保育士、看護師、心理療法 専門員、学習指導員】

ポイント

- ◆豊富な実務経験を持つ職員 の採用や職員派遣により、高 度な専門性を持つ職員を配置
- ◆児童福祉司や児童心理司を 国の基準よりも手厚く配置

里親専門のフォスタリング機関、 弁護士、医師、アドボケイト等 は委託で配置。

児童相談所には「港区児童虐待相談ダイヤル」を設置し、夜間休日も電話受付相談員が対応することで、相談への迅速な対応が可能!

基本方針の実現にむけた取組



新たな児童相談体制の構築

- ◆虐待の通告窓口を児童相談所に一元化 し専門職がリスクを判断、子ども家庭 支援センターと初動から連携しケースの 状況に応じた迅速丁寧な対応を行う
- ◆子ども家庭支援センターにDVや家族問題の相談、ひとり親支援を担当する家庭相談センターの機能を一体化、子どもと家庭への幅広い相談支援を充実



「みなとハートフレンド」の創設

◆港区児童相談所が関わる子どもや家庭を 支援する有償ボランティア制度。大学生、 専門学校生からシニア世代まで含めた 区民等を養成





シニア世代までの支援者育成は港区独自!



児童の権利擁護の充実

- ◆児童の意見を丁寧に聴取し、適切に対応
- ◆児童の意見を代弁するアドボケイトの配置
- ◆一時保護所の第三者評価の実施
- ◆一時保護所でのタブレット活用による学習の保障

施設・里親等の社会的養護の広域利用や、一時保護所の相互利用、転居等における情報共有など、東京都や他区の児童相談所と緊密に連携し、東京の児童を東京全体で守っていきます!

港区子ども家庭総合支援センター

「港区子ども家庭総合支援センター」は、児童相談所、子ども家庭支援センター、母子生活支援施設の複合施設です。



住所:港区南青山5-7-11-12

階数	主な諸室
4階	母子生活支援施設
3階	児童相談所
	(相談室:児童相談所と子ども家庭 支援センターが共有)
2階	児童相談所
	(事務室:児童相談所と子ども家庭 支援センターが共有)
1階	子ども家庭支援センター
	(体育館:児童相談所と子ども家庭 支援センターが共有)

全ての児童の心身の健やかな成長のため、妊娠期から子育で期、<mark>思春期、</mark>児童の自立まで一貫して切れ目のないきめ細かな支援をしていきます!





3つの施設で切れ目のない支援を

気軽に立ち寄れる、子育ての拠点

子ども家庭支援センター

家庭に寄り添う相談支援

●子ども・子育て支援サービスの情報提供、申込み

●子育てひろば

迅速に

気軽に 利用

専門的な相談を気軽に利用 児童相談所

身近な

場所で

児童福祉司、児童心理司、 医師、弁護士等による 専門相談、診断等

専門性の高い相談

母子が安心して暮らしながら 自立を目指す

母子生活支援施設

親子が一緒に生活する環境での支援

ワン ストップで

港区要保護児童対策地域協議会と進行管理

●港区要保護児童対策地域協議会

- ・平成18年7月に港区要保護児童対策地域協議会を設置
- ・調整機関は、子ども家庭支援センターで今後も維持
- ・代表者会議、実務者会議、個別ケース検討会議で構成
- ・児童虐待への対応、関係機関研修、居所不明児童調査、 学校等の長期欠席者確認、個別ケースごとの関係機関 の役割分担に基づく対応、マニュアルの発行等を実施

●進行管理会議

児童相談所と子ども家庭支援センターではシステム を共有する。定期的にケースの進行管理も行う予定

